

















































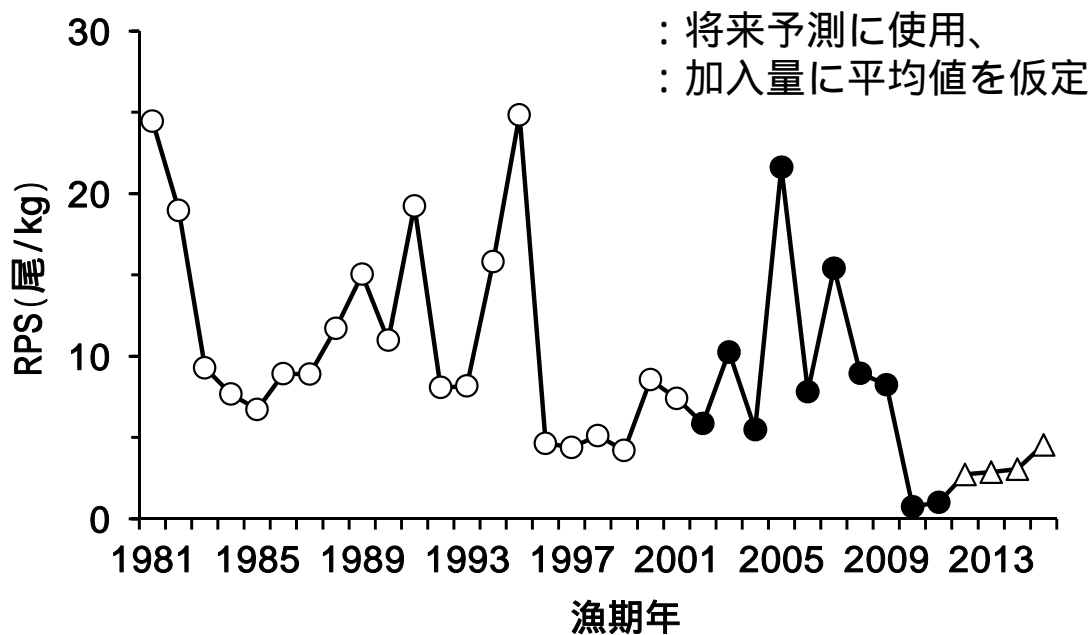








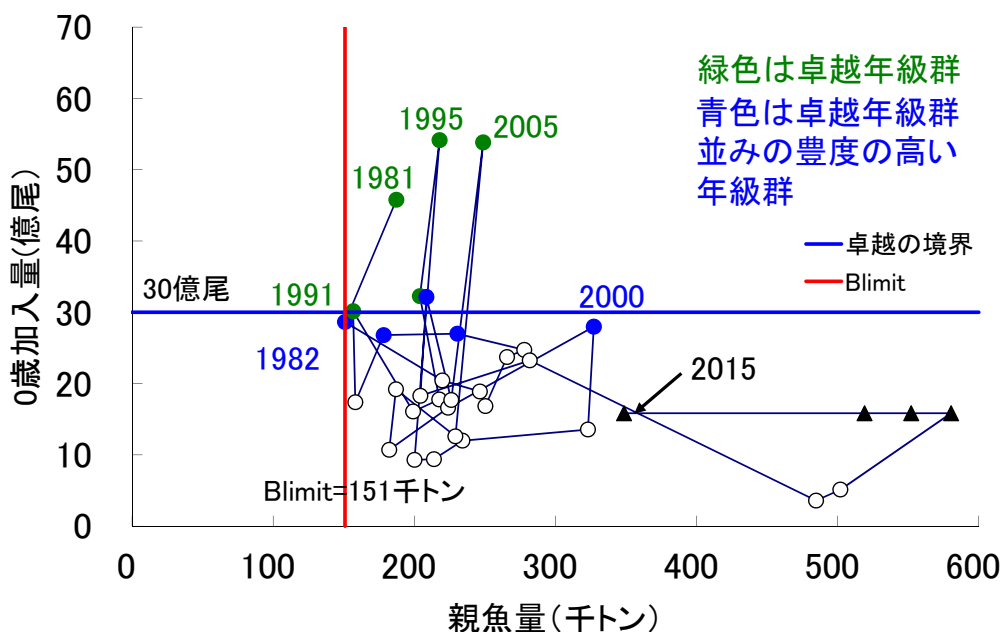
# 再生産成功率RPSの推移



- 2010・2011年漁期の低いRPS：不適な海洋環境が影響
- 2012年漁期以降の低いRPS：多い親魚量が影響
- 黒丸の2002～2011年漁期平均値を将来の加入量予測に使用

51

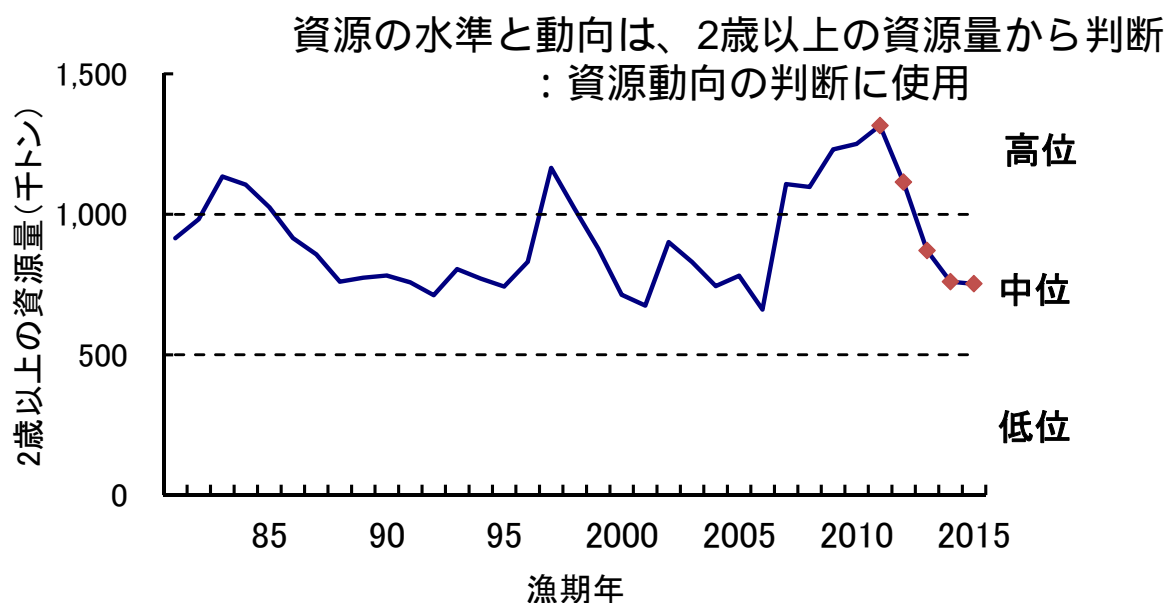
## Blimitと管理目標



- 資源量は安定して推移し、豊度の高い年級群発生後に増加
- 今後も豊度の高い年級群が発生する親魚量を維持すれば、持続的に利用可能
- 豊度の高い年級群の発生が期待できる最低水準の親魚量(1982年級群が発生した15.1万トン)をBlimitとし、親魚量をBlimit以上の適切な水準に維持
- 2015年漁期の親魚量はBlimitの2倍以上の高い値(39.7万トン)

52

# 資源の水準・動向

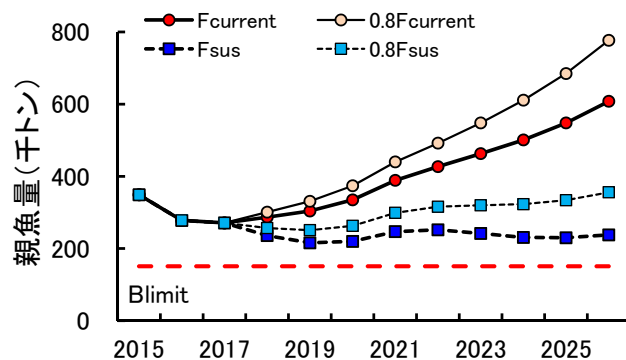
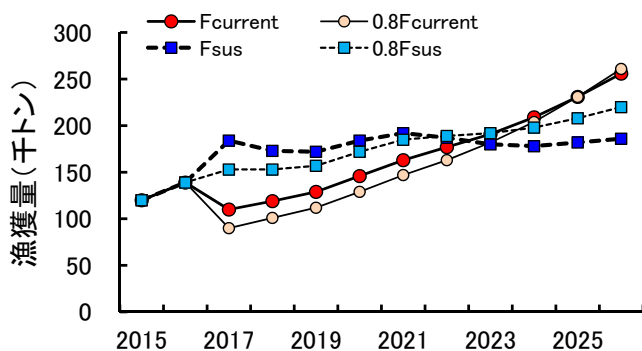


- 高位水準：100万トン以上、低位水準：50万トン未満
- 太平洋系群は1981年漁期以降、常に中位水準以上
- 動向は、2011～2015年漁期の傾向から減少と判断

## 資源評価のまとめと2017年漁期ABCの算定方法

- 資源評価
  - 中位・減少(昨年漁期：中位・減少)
  - 2015年漁期の親魚量(34.9万トン) > Blimit(15.1万トン)
  - $F_{30\%SPR} \doteq F_{current} < F_{sus}$
- ABC算定
  - 規則 1-1)-(1)
  - 2016年漁期漁獲量 = TAC × 近5年平均消化率(13.9万トン)
  - 加入量 = RPS(2002～2011年漁期の平均値) × 親魚量
- 管理基準
  - 現状の漁獲圧を維持する  $F_{current}$
  - 親魚量を維持する  $F_{sus}$

# 各シナリオにおける将来予測



- Fsusでは、親魚量は24万トン付近で推移
- Fcurrentでは、親魚量は増加

55

## 2017年漁期ABC

漁獲シナリオ (管理基準)	Limit / Target	F値 (Fcurrentとの比 較)	漁獲 割合 (%)	将来漁獲量		評価		2017年 漁期 ABC (千トン)
				5年後 (千トン)	5年 平均 (千トン)	Blimitを 維持 (5年後)	Blimitを 維持 (10年 後)	
現状の漁獲圧 の維持* (Fcurrent)	Target	0.26 (0.80Fcurrent)	9	98~ 200	115	100%	100%	90
	Limit	0.32 (1.00Fcurrent)	11	107~ 222	133	100%	100%	110
親魚量の維持* (Fsus)	Target	0.47 (1.46Fcurrent)	15	118~ 263	165	97%	97%	153
	Limit	0.59 (1.82Fcurrent)	18	119~ 274	181	88%	80%	184

\*を付したシナリオは中期的管理方針に合致する

56